

平成23年度 学校・教育機関の個人情報漏えいの 発生状況・教員の意識に関する調査

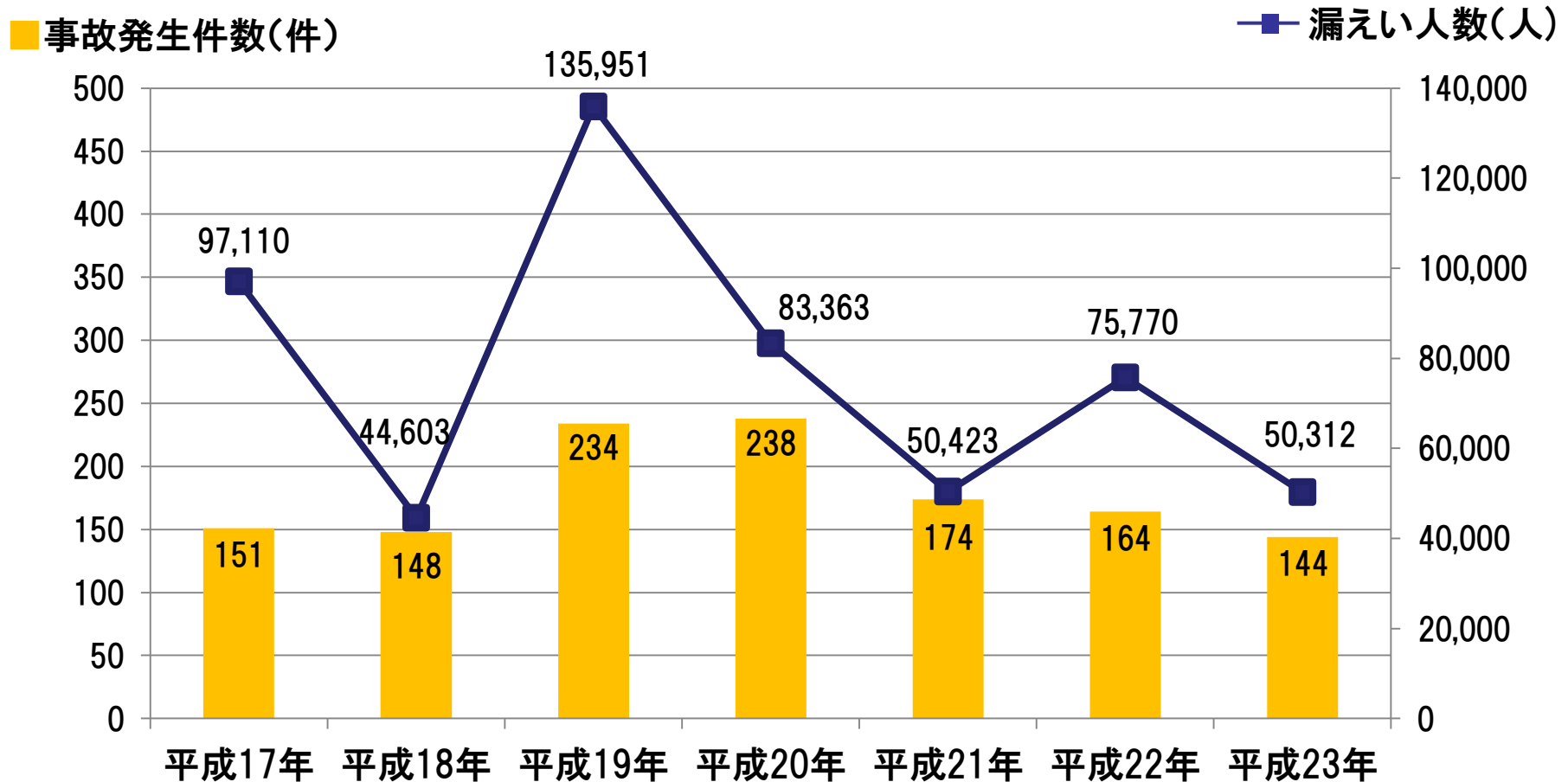


学校の個人情報漏えいの発生状況 について

- ◆ 本資料は、平成23年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)に学校、教育機関、関連組織で発生した、児童・生徒・教員などの個人情報を含む情報の漏えい事故についての公開情報を集計したものです。
- ◆ 学校や自治体が発表・公開した情報を集計しています。発生したすべての情報漏えい事故を網羅したものではありません。

情報漏えい事故 発生件数・漏えい人数7年分推移

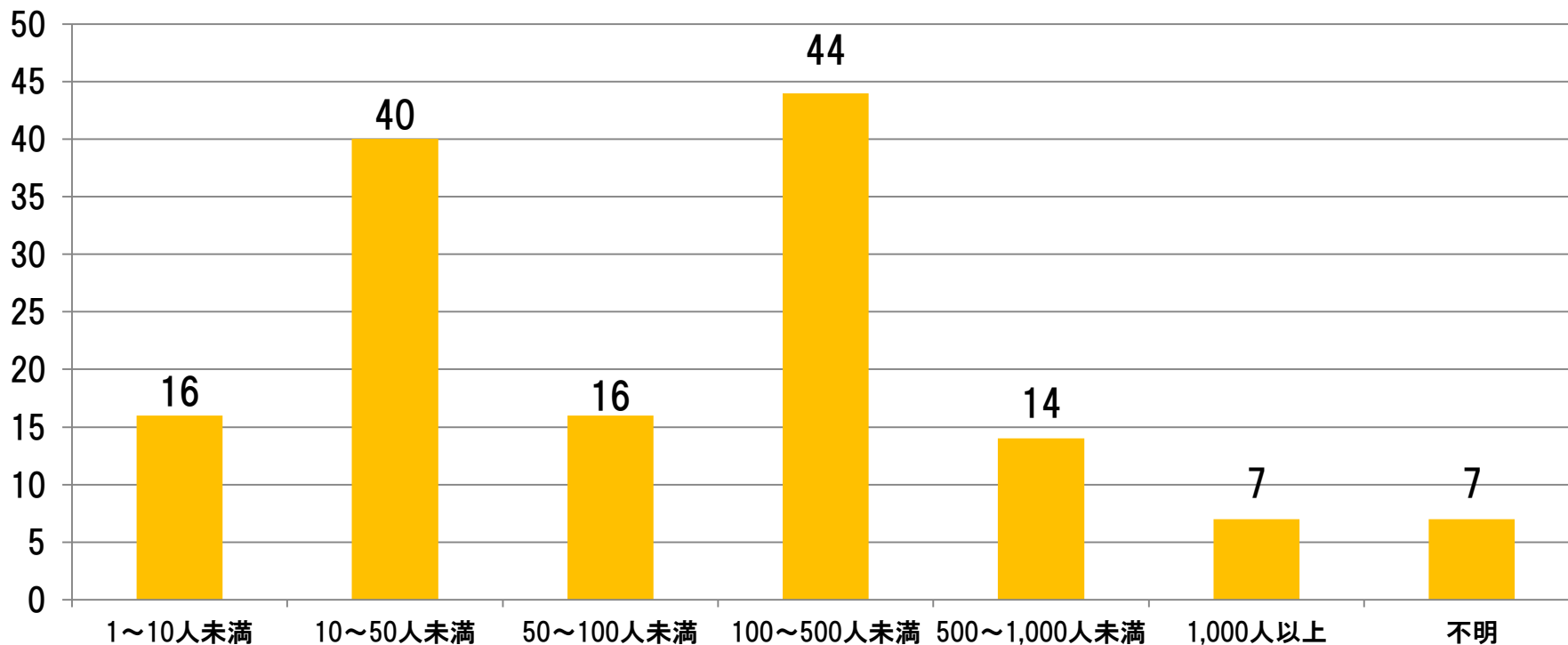
- ◆ 毎年、多くの個人情報漏えいしています。
平成23年度の場合、事故1件あたりの漏えい人数の平均は、349人です。



平成23年度 漏えい人数の分布別 事故件数

- ◆ 情報漏えい事故1件あたりの漏えい人数は、1人から1万1,000人まで大きく幅があります。

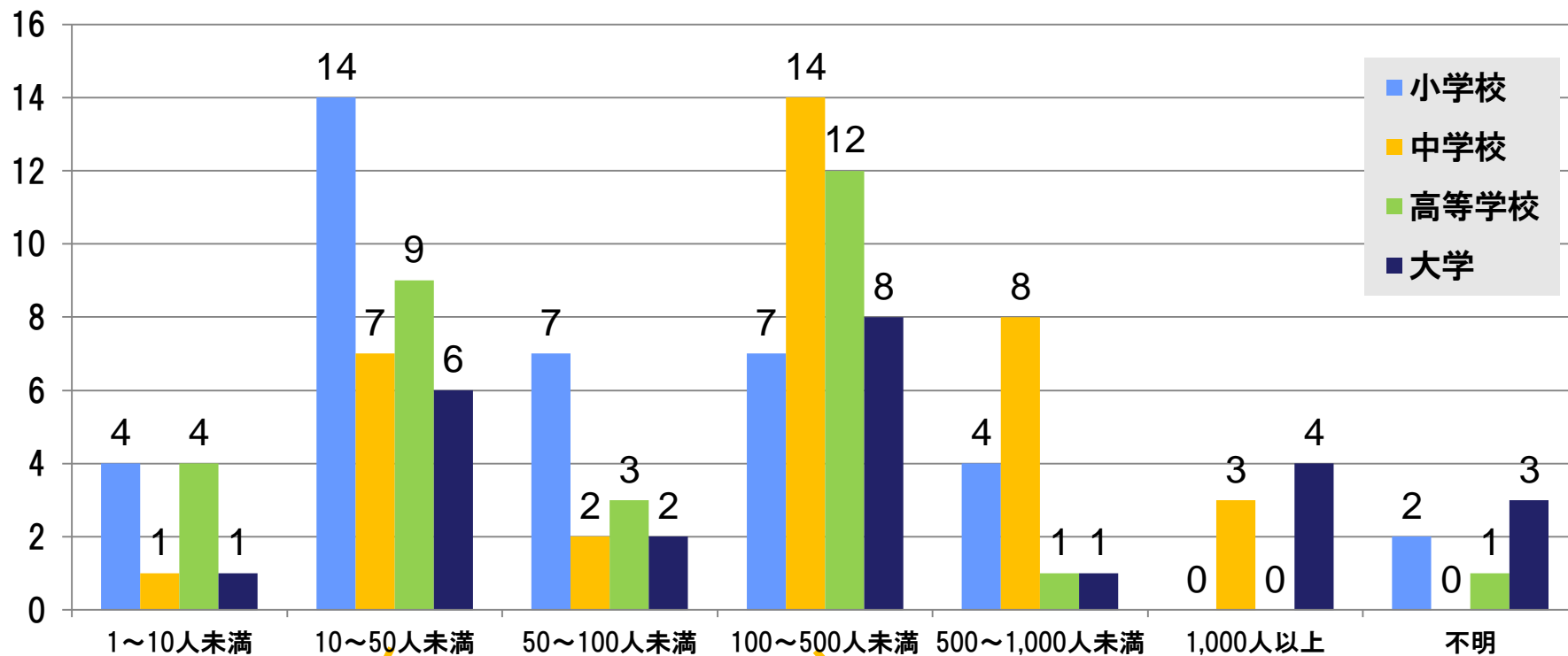
■ 事故発生件数(件)



平成23年度 漏えい人数の分布・学校種別 事故件数

- ◆ 学校の種別によって、事故の傾向に違いが見られます。先生の取り扱う情報量の違いが影響しています。

■ 事故発生件数(件)



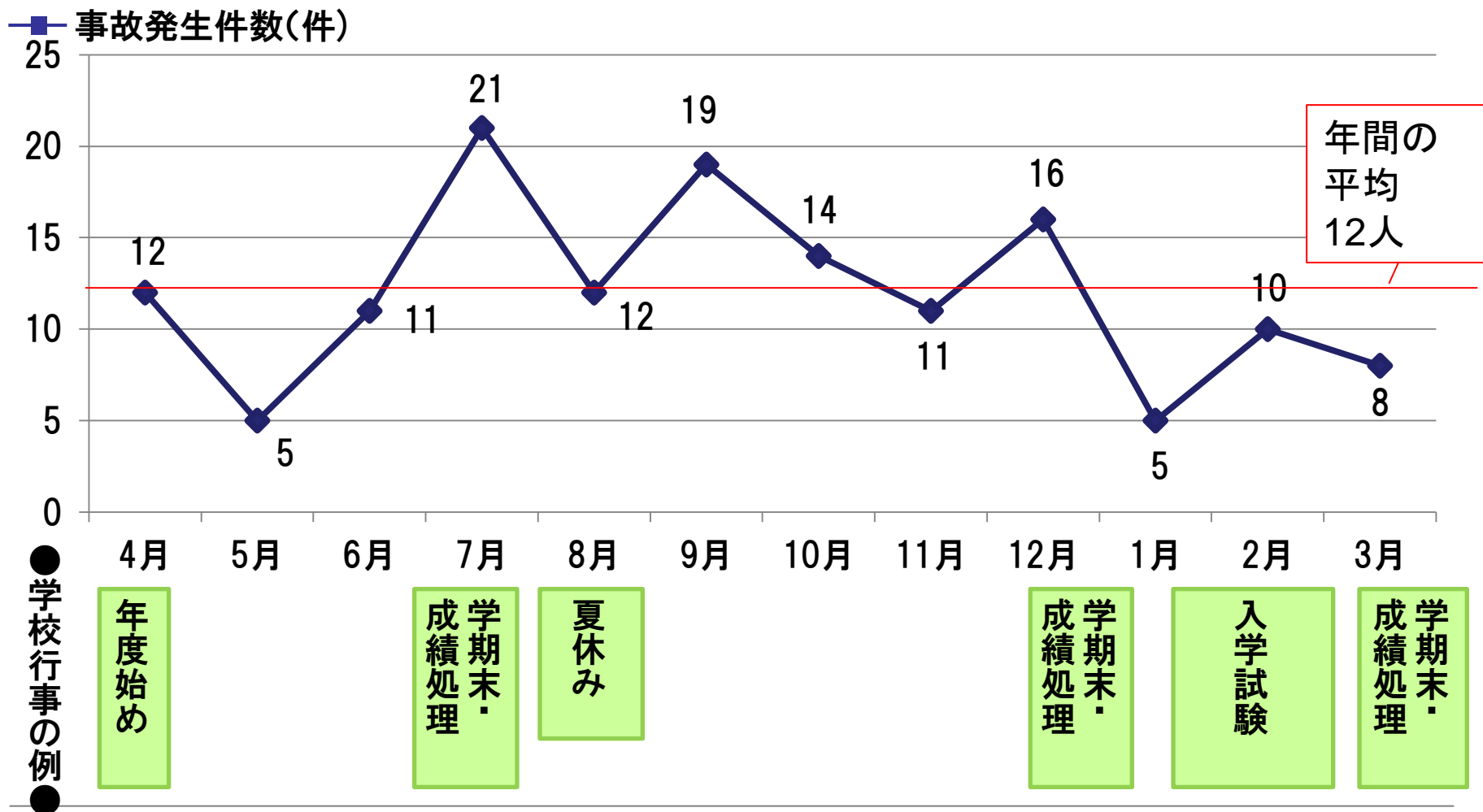
傾向

クラス単位の事故が多い(小学校に多い)

学年単位の事故が多い(中学・高校に多い)

平成23年度 月別事故発生件数

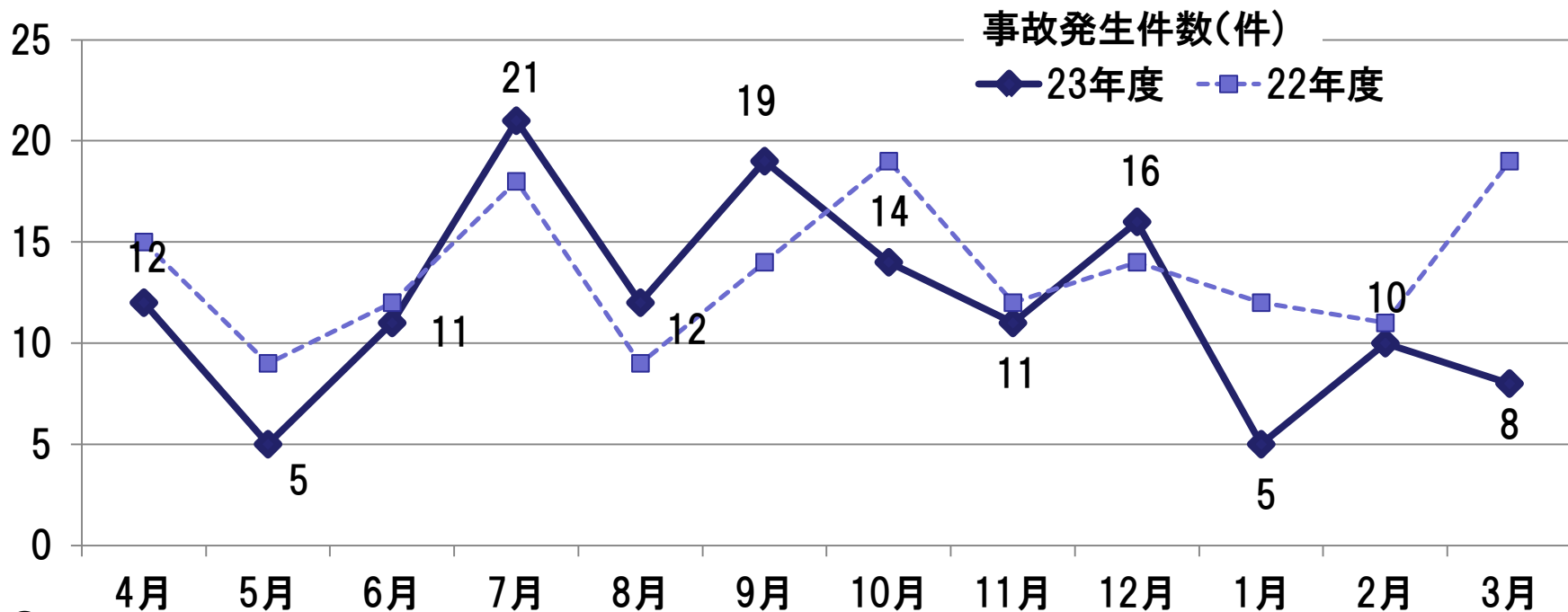
- ◆ 毎月、平均12件の事故が発生していますが、学校行事の時期などによって発生件数にばらつきが見られます。



● 学校行事の例 ●

月別事故発生件数(昨年度との比較)

- ◆ 3月だけが、年度により傾向が異なりますが、概ね月別発生件数の傾向は似ています。



● 学校行事の例 ●

年度始め

学期末・
成績処理

夏休み

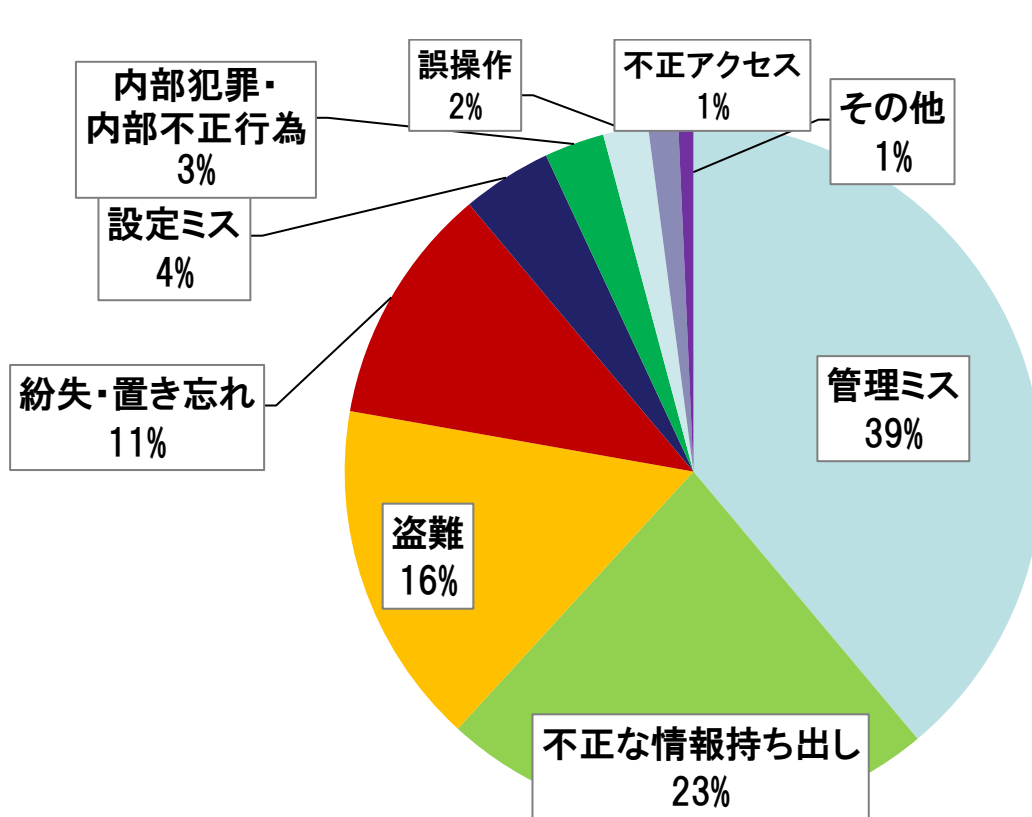
学期末・
成績処理

入学試験

学期末・
成績処理

事故の種類別 発生割合

- ◆ 書類や、USBメモリ、パソコンなどの「管理ミス」「不正な情報持ち出し」「盗難」「紛失、置き忘れ」が全体の約90%を占めています。



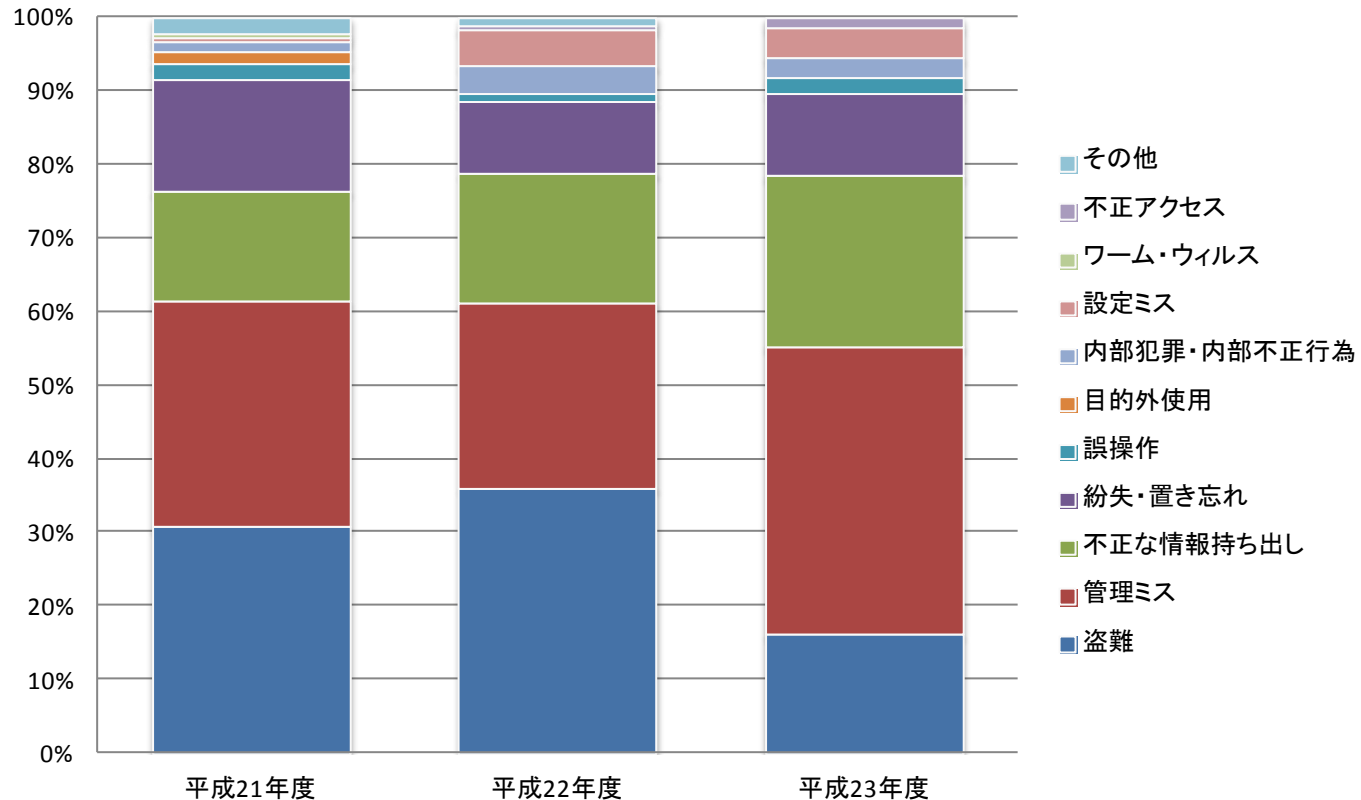
傾向

・学校で発生した情報セキュリティ事故は、公表されないものもありますが、発生した場合、警察などの学校外の機関も関わる「盗難」は公表されることが多いです。

・一般企業と比較すると盗難、不正な情報の持ち出しが多く、誤操作が極端に少ない

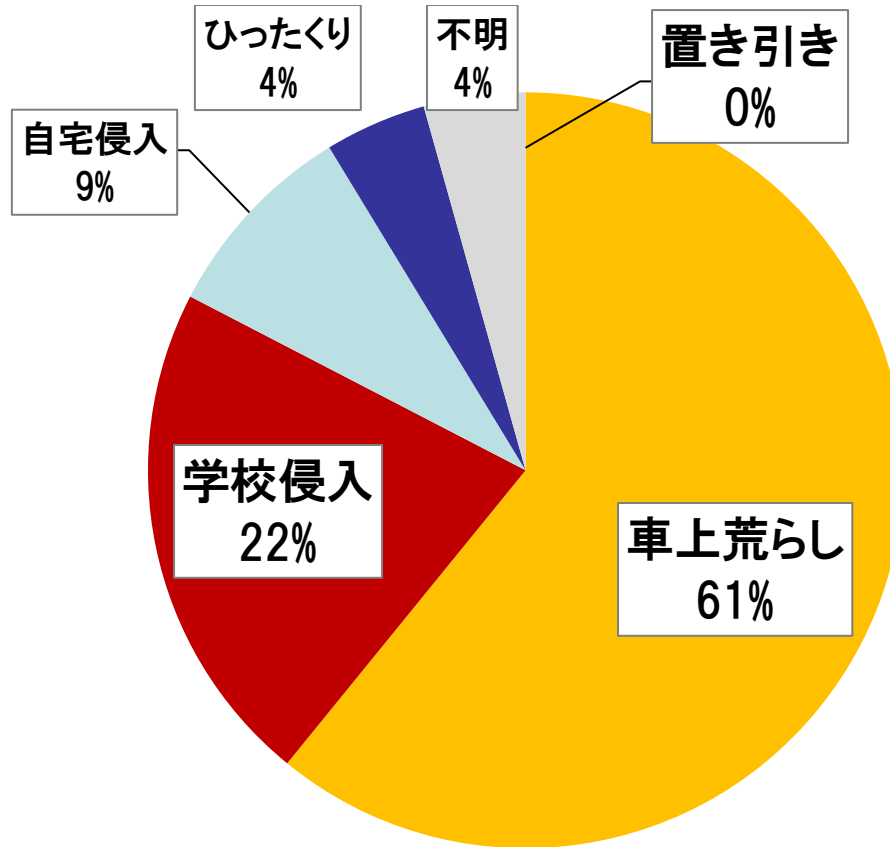
発表情報で、「盗難」「紛失」などと発表されているものについても、「管理ミス」や「不正な情報持ち出し」がきっかけとなって起きたことが公表されているものは、それぞれ「管理ミス」「不正な情報持ち出し」として集計しています。

事故の種類別比率の推移



- ◆ 昨年と比較すると**盗難の比率が減少**しています。
- ◆ 不正な情報持ち出しや管理ミスが増加しているのは、**警察に届けられないものも公表されるようになってきた**という、良い傾向だと思います。
- ◆ 現在の学校の状況を考えると、今後も管理ミスなどは増加傾向になるでしょう。

事故種類別(盗難) 詳細内訳

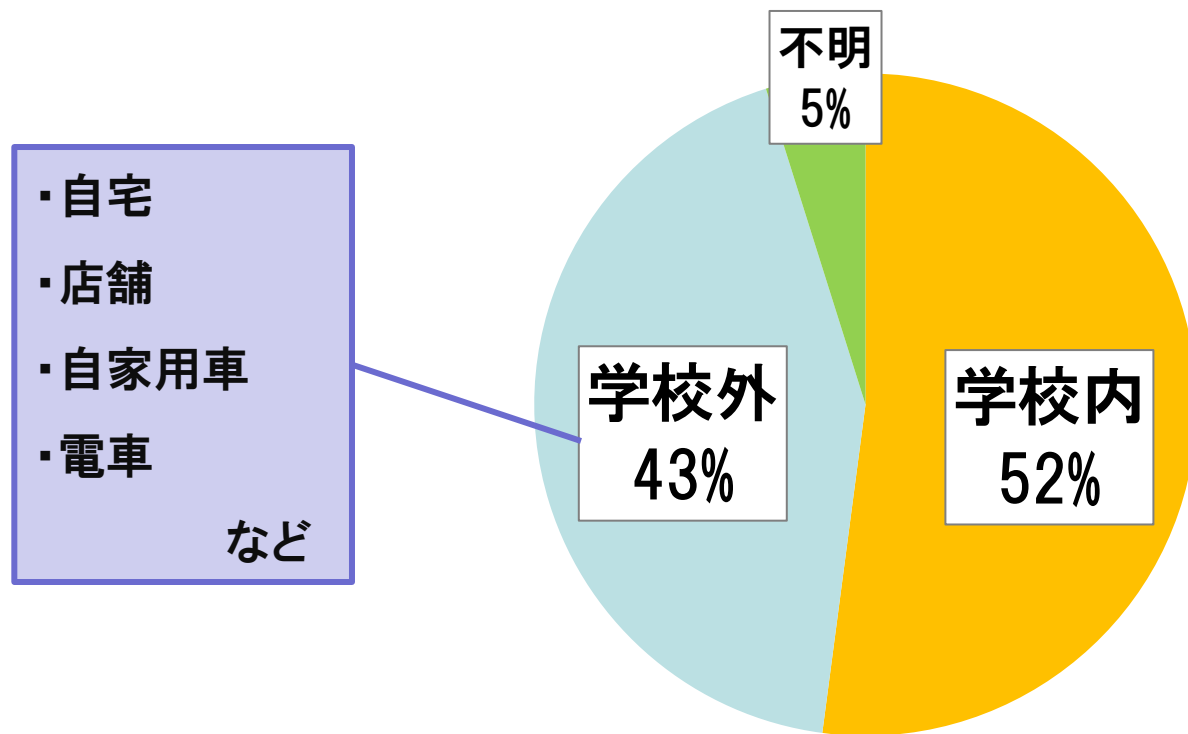


傾向

車上荒らしが半数以上を占めています。
一般企業と比較すると、先生方は車を通勤手段に使うことが多いため、
車上荒らしが多いのが特徴といえます。

情報漏えい事故の発生場所

◆ 学校内での事故が半数以上となっています。

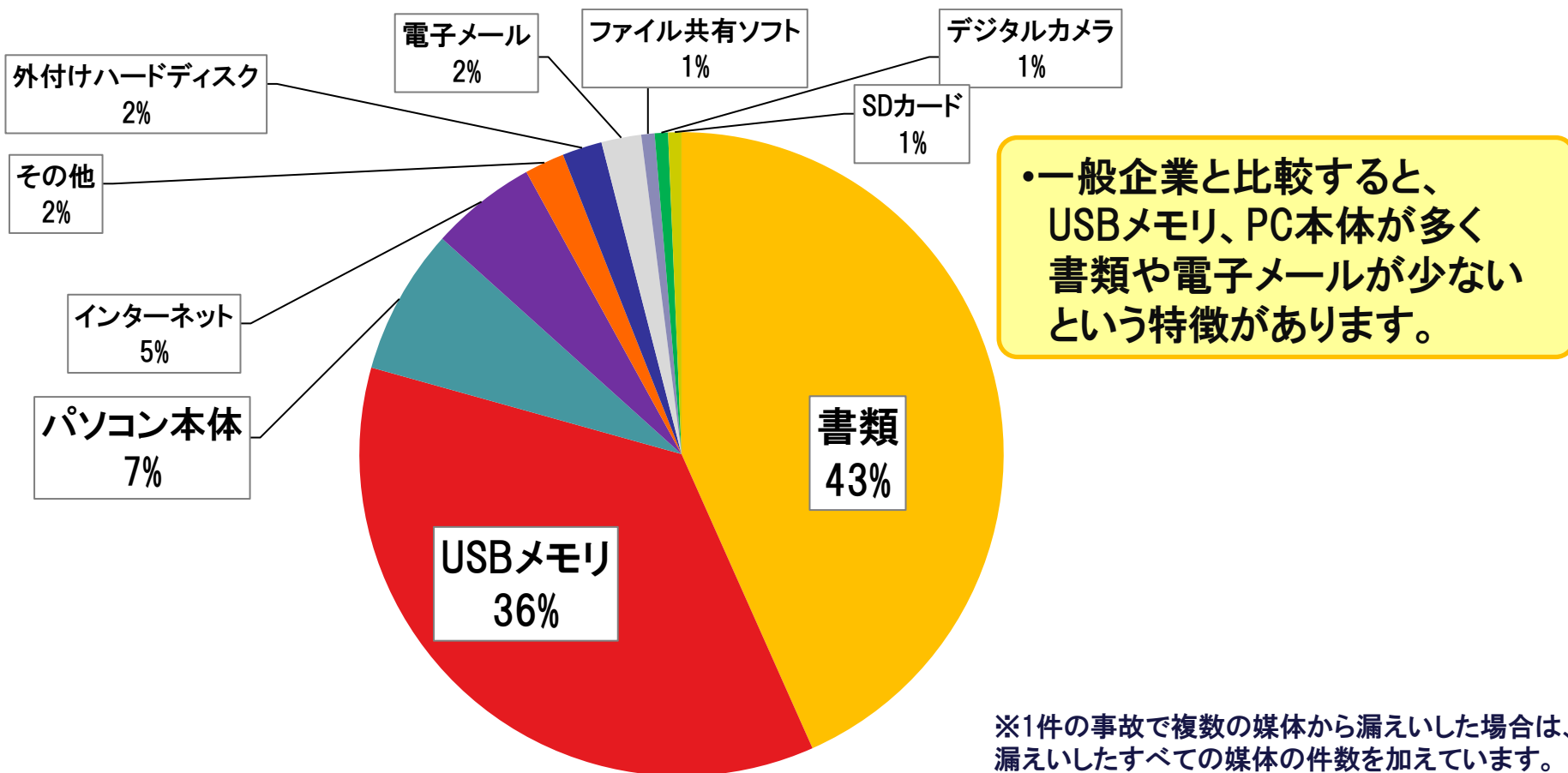


傾向

一般企業などでは、外に持ち出して事故に遭うケースが多いのですが、学校内での事故も多くなっています。

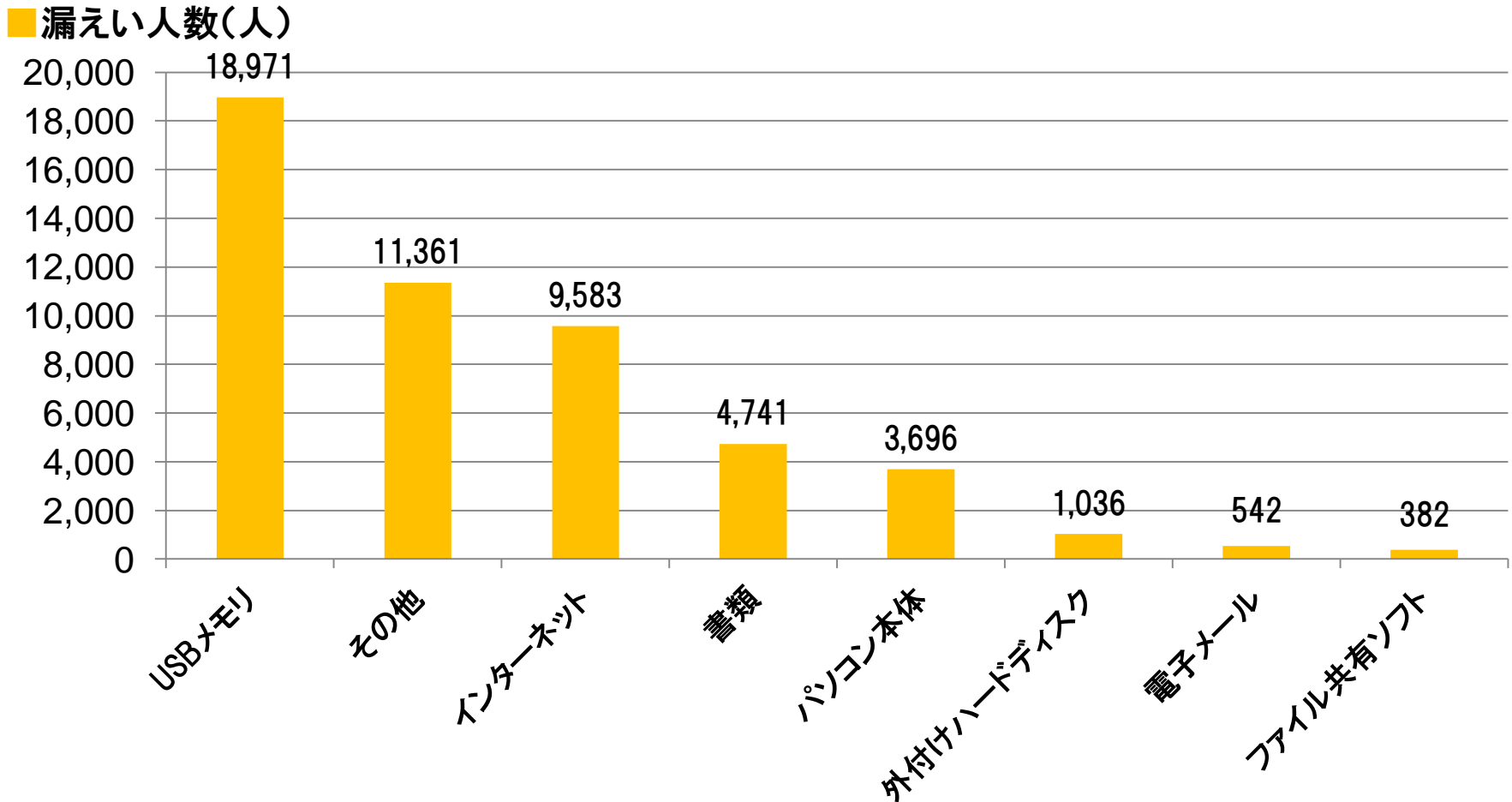
漏えい媒体別 漏えい事故件数

◆ ICT機器(USBメモリ・パソコン・外付けハードディスク・デジタルカメラ)の事故が全体の半数以上を占めます。



漏えい媒体別 漏えい人数

◆ 電子記録媒体の紛失などにより、漏えいした人数が多いです



※1件の事故で複数の媒体から漏えいした場合は、漏えいしたすべての媒体の人数を加えています。

補足：事故の種類 分類名の解説(1)

- ◆ 本資料では、情報セキュリティ事故の種類を次のように分類しています。

事故の種類	どのような事故か
不正な情報持ち出し	<p>業務上の必要性などからルールを逸脱して情報を持ち出した結果、情報漏えいした場合。</p> <p>※ルールを逸脱して持ち帰った結果、盗難にあたり、ファイル交換ソフトで漏えいした場合も、不正な情報持ち出しに分類する。</p>
管理ミス	<p>学校内・組織内での取り扱いが不適切だったため、紛失や行方不明となった場合。作業手順の誤りや、情報の公開、管理ルールが明確化されていなかったために業務上において漏えいした事故。原因が学校・組織の管理体制にある。</p> <p>※管理ミスによって盗難が発生した場合は盗難に分類する。 ※校内において、管理が行き届かずに誤って廃棄した場合も含む。</p>
盗難	<p>第三者によって情報記録媒体(USBメモリ、パソコンなど)と共に情報が盗まれた場合。車上荒らし、学校侵入による窃盗など。</p> <p>※保存された情報のみを盗難された場合は、不正アクセスに分類する。</p>
紛失・置き忘れ	<p>持ち出し許可を得た情報を、持ち出し先や移動中に置き忘れたり、紛失した場合。個人の管理ミスによって発生した場合。</p> <p>※校内で管理すべき情報を紛失した場合は、管理ミスに分類する。</p>

補足：事故の種類 分類名の解説(2)

事故の種類	どのような事故か
設定ミス	ユーザがWebサーバやファイルのアクセス権などの 設定を誤ったこと によって情報漏えいした場合。
誤操作	あて先を間違えたり、操作ボタンを間違えて押したりするなどの、 人間の作業・行動によって 情報漏えいした場合。
不正アクセス	外部の第三者が 、主にネットワークを経由して不正にアクセスを行い、情報漏えいした場合。 ※内部の人間の不正アクセスの場合は、内部犯罪・内部不正行為に分類する。
内部犯罪・ 内部不正行為	内部の人間が 、不正アクセス、その他不正な行為によって情報を持ち出し、悪用した場合。
ワーム・ウィルス	ウィルス・ワームによって、情報が漏えいした場合。
バグ・ セキュリティホール	OSやアプリケーション等の既存のソフトウェア上のバグ・セキュリティホールが原因で情報が漏えいした場合。
目的外使用	個人情報を当初の目的以外の用途に使用した場合。開示範囲外を超えて公開した場合。
その他	上記のいずれにも該当しないもの。
不明	原因が不明のもの。